

(別紙様式2-2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書(令和6年度)

1 学校の概要

- (1) 学校名 さぬき市立津田小学校
(2) 所在地 香川県さぬき市津田町津田1 4 4 番地
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (令和6年4月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
1学級 19名	1学級 16名	1学級 27名	1学級 34名	1学級 27名	1学級 20名	2学級 7名	150名	13名

2 研究主題等

- (1) 研究主題 学びを自分ごととしてつなぐ児童の育成(2年次)
～ともによりよく生きる地域道徳教育～

(2) 研究主題設定の理由

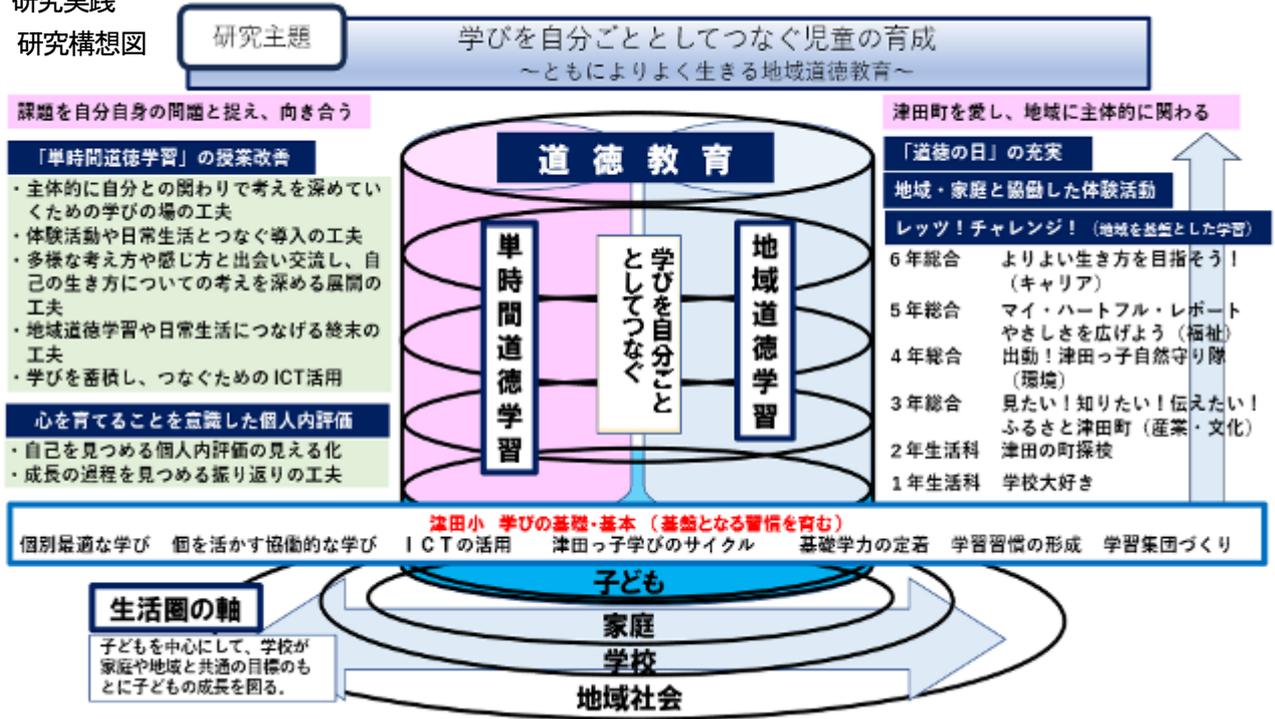
本校では、令和6年度香川県小学校教育研究会道徳部会研究発表会に向けて、令和4年度から学校教育目標である『ふるさと津田町を愛し、夢に向かってチャレンジする子どもの育成』のもと、「特別の教科 道徳」の授業改善を行ってきた。令和5年度から、研究主題を『学びを自分ごととしてつなぐ児童の育成』とし、これまでの学びを「自分ごとの学び」の視点で見直し、研究を進めている。また、道徳教育の要として、ふるさとの豊かな自然や文化について再認識するとともに、それらを生かし、これからの「津田町」を学校・家庭・地域が共創していく地域道徳教育を推進するために、副主題を『ともによりよく生きる地域道徳教育』と設定した。

(3) 研究内容及び方法

- ① 道徳教育の1つの柱として他教科等や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳学習を構想し実施する。
- ア 地域道徳学習の構想
- ・地域道徳学習年間計画、道徳別葉の見直し(年度初めに)
- イ 異校種(こども園・高等学校)や地域ボランティアの人たちとの交流と、地域課題に主体的に関わろうとする心情の涵養及びふるさとの特色を生かした地域教材の開発
- ウ 自分の役割を自覚し、他者を尊重し合うペア学年での交流(なかよしタイム)の充実
- ・ペア学年グループで撮った写真の掲示
 - ・なかよしタイムの計画
 - ・なかよしタイムでの活動
- エ 「津田町が好き！」という思いを高めるための取組
- ・地域を生かした体験活動の工夫
 - ・自己の変化を見つめる振り返り
- オ 家庭・地域社会とのつながりを深める「道徳の日」の充実
- ・学校全体で取り組む「道徳の日」の計画・実践
 - ・学校だよりで道徳コーナーを設け、「道徳の日」の取組を家庭・地域に広げる。
- ② 「単時間道徳学習」の在り方を「自分ごとの学び」の視点で見直し、授業を工夫し、質的改善を図る。
- ア 心を育む「単時間道徳学習」の見直し
- イ 「4つの学習過程」の実践
- ウ 単時間道徳学習の授業改善(具体的な取組)
- エ 全職員で「自分ごとの学び」の姿を共有し、それが見られた授業実践の交流
- ・学びのモデル(授業づくりのポイント)の作成
 - ・模擬授業形式による事前研修
 - ・低・中・高学年同士での、同じ内容項目の事前授業公開
 - ・自分ごとの学びについて子どもの姿で検証していく研究討議
 - ・実践の積み重ねにより、自分ごととして考えている児童の姿の明確化
- オ 「ふるさと香川」や「新ふるさとの心」(県教育委員会作成)を活用し、「自分ごとの学び」となるよう地域の実態に応じた内容に再構成
- カ 自分の心を育てることを意識した個人内評価(自己内評価・振り返り・自己調整力)の工夫
- ・今の自分を見つめる
 - ・内容項目を生かした目標設定
 - ・振り返りの場の設定

3 研究実践

(1) 研究構想図



(2) 単時間道徳学習と地域道徳学習

単時間道徳学習	授業過程	地域道徳学習
日常生活の中から、学ぶ価値内容の視点から見た課題を提示する。（自分ごととして考える視点を築く）	導入 ＜問題をもつ＞	生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点から見た課題を提示する。（自分ごととして考える視点を築く）
教材（道徳の資料等）の中心場面を通して、価値理解（郷土愛等）を図り、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を高める。 （価値の一般化、価値の内面自覚）	＜追求するⅠ＞ 展開 ＜追求するⅡ＞	教材（道徳の資料等）の中心場面を通して、価値理解（郷土愛等）を図り、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を高める。 （価値の一般化、価値の内面自覚）
自分ごととして、学んだ価値内容と自分の生活とをつないで、解決の見通しをもたせる。（自分の解決の見通しをもつ）	終末 ＜つなげる＞	自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題とをつないで、解決の見通しをもたせる。（自分の解決の見通しをもつ）

※ 地域道徳学習とは、地域の課題を子どもたちが自分ごととして考え、解決を図るために、教科、教科外など全教育活動と地域の「ひと、もの、こと」を関わり合わせて地域に提案するものである。

(3) 研究の具体

① 道徳教育の1つの柱として他教科等や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳学習を構想し実施する。

ア 地域道徳学習の構想

・地域道徳学習年間計画、道徳別業の見直し

地域道徳学習年間計画(案)、道徳別業(案)を基に、総合的な学習の時間の体験活動と、各教科、学校行事、道徳科等との関連が図れているか、各学年団で年度初めに見直しをした。

地域道徳学習年間計画を見直したあと変更した点を道徳別業に書き加えた。

イ 異校種（こども園・高等学校）や地域ボランティアの人たちとの交流と、地域課題に主体的に関わろうとする心情の涵養及びふるさとの特色を生かした地域教材の開発

第1学年の実践「ふるさとのために、自分にできることを考えよう（学校大好き）」

①生活科「がっこうだいすき」

運動場のシーソーが大好き！
昼休みは、6年生のお兄ちゃんやお姉ちゃんと遊ぶのが楽しいんだ。

学校の外にあるペランダがお気に入り。
先生、覗かなくて気持ちいいよね。

学校の中で保健室がお気に入りの場所なの。ねえ、先生何しているの？

ぼくたちは、ランチルームがお気に入りなんだよ。いつも、給食を運んでくれている先生がいたよ。いつもありがとう！

学校でお気に入りの場所をいっぱい見つけたよ。

③学校行事「松原清掃」

お家の人たちや地域の人たちと一緒にきれいにしよう。みんな松原を大切に思っているんだ。

わたしたちは、6年学年の松「ほていさん」をきれいにするよ。よろこんでくれたかな？早く、なごよくなりたいな。

地域の人たちは、松原を大切に思っているんだ。ぼくたちも、学年の松「ほていさん」となごよくなりたいな。

④生活科「こうえんへいこう」

松原の公園は、遊具があるし、海が見えるよ。鳥がいるよ。鳥もいるよ。

樹上がり松の上で、ひとやすみ。気持ちがいいなあ。

みんなで 嬉しく遊ぼう！

津田の海岸にある公園で遊ぼう！

⑤学校行事「海岸清掃」

高校生のお兄ちゃんと一緒にゴミを拾ったよ。ふくろの中が涙に落ちていたゴミでいっぱいになったよ。

高校生や4年生のお兄ちゃんお姉ちゃん、地域の人たち、こども園のみんなと協力して、涙に落ちていたゴミをたくさん拾ったよ。ほら、こんなにたくさんのごみさくら。すごいでしょ！

みんなで協力したら、海岸がすごくきれいになったよ。

⑥道徳「津田の松原—海がんせいそう」

ねらい 津田の海岸清掃に関わってきた人たちの思いを理解することを通して、地域のために力を合わせてできることに取り組もうとする心情を育てる。

学習活動	児童の意識の流れ	「地域道徳学習」の流れ
<p>【問題をもつ】 海岸清掃の写真を提示し、その時の気持ちを思い出す。</p> <p>教材を読み、学習課題をつかむ。</p>	<p>・高校生がいたよ。みんなで協力してゴミをいっぱい集めたよ。</p> <p>・きれいにして気持ちがよくなったなあ。</p> <p>・海岸清掃はずっと続いってきたんだ。</p> <p>海岸清掃を続けてきた人の気持ちを考えよう。</p>	<p>【問題をもつ】 生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点で見た課題を提示する。(自分ごととして考える視点を築く)</p>
<p>【追求するⅠ】 (1) 海岸清掃に関わった人の気持ちを考える。 (2) 海岸清掃をする小学生の気持ちを考え、役割演技をする。</p>	<p>・海水浴のお客さんに気持ちよく使ってもらいたい。</p> <p>・みんなで掃除をすることを続けていけば、ずっときれいな海になると思う。</p> <p>・きれいな海岸になると気持ちがいいな。掃除をするという気持ちになるよ。</p>	<p>【追求するⅠ・Ⅱ】 教材（道徳の資料等）の中心場面を通して、価値理解（郷土愛等）を図り、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を高める。(価値の一般化、価値の内面自覚)</p>
<p>【追求するⅡ】 本時で学んだことを振り返る。</p>	<p>ずっと続いってきたのは</p> <p>・きれいになって気持ちがいい</p> <p>・みんなで協力すると楽しい</p> <p>・津田の町が好き</p> <p>・津田に来る人に喜んでもらいたい という気持ちがあるからだね。これからも海岸清掃が続いてほしい。</p>	<p>【つなげる】 自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題をつないで、解決の見通しをもたせる。(自分の解決の見通しをもつ)</p>
<p>【つなげる】 次の松原清掃や海岸清掃に自分はどうな気持ちで取り組みたいか考える。</p>	<p>・大好きな津田の松原や海岸を一生懸命に掃除しよう。</p> <p>・みんなできれいな松原にしたい。</p> <p>・ふるさとの松原や海岸をいつまでも守っていきたい。</p> <p>・協力して、みんなで海岸をきれいにしたいな。</p>	<p>教材と自分ごととを行き来しながら、思いを深めていく。</p>

⑦学校行事「松原清掃」

みんなで協力して、わたしひとりではできなかった大きい山ができました。松原がきれいになって、うれしかったです。

旅行で来てくれた人やいろいろな人にきれいだなと思ってほいすです。ずっとそうして、松原をきれいにしたいです。

「みんなで力を合わせがんばろう！」としました。もう一回やりたいと思いました。

「ほていさんの松」のために、心をこめてがんばりました。

地域のために力を合わせてできることに取り組もうとする心情が育ってきました。

(実践の成果として)

- 年間計画を基に実践を行った。6月に海岸清掃に参加し、地域の人と触れ合い、地域のために活動している人に出会う場があるので、そこから地域を大切にする心につながっていった。
- 道徳のファイルや道徳のワークシート、道徳の日に書いたワークシートなどを定期的に家庭に持ち帰ることで、道徳学習の様子が保護者に伝わるようにした。

第2学年の実践「ふるさと津田町のすてきを見つけて届けよう（津田の町探検）」

①生活科「春だ 今日から2年生」

何年前から、ここにある松なんだろう。ふしぎだな。

2年生の松「大黒天」は、やっぱりおっきいなあ。

2年生の松「大黒天」は、大きくて立派だなあ。6年間大切に世話をしていきたいな。

②生活科「親子松原清掃」

いつもあそんでいる松原が、きれいになってよかったよ。また、やりたいなあ。

思ったよりいっぱい落ちていてそうじするのが、楽しかったよ。

そうじしてきれいになった松原を見たら、また遊びに来たくなったよ。

地域の人たちが普段は松原をきれいにしてくれているんだな。みんなでごみをたくさんとって、松原がきれいになってよかったな。

③学校行事「海岸清掃」

たくさんのごみをひろって気持ちよかったです。

高校生のお兄さんお姉さんと、またいっしょにしたいな。

夏休み、泳ぎに来るのが楽しみになったよ。

高校生のお兄さん、お姉さんと一緒にそうじをして楽しかったな。また、一緒にそうじをして海をきれいにしたいな。

④生活科「ときどきわくわくまちたんけん」

いろいろなお仕事があるんだなあ。

みちのえきで一番人気なのは、肉うどんと知って、びっくりしたよ。

わたしたちのまわりには、こんなにたくさんの方がいて、津田町を守っているんだな。

おーい こども園のみんなあー。

おーい お兄ちゃん、お姉ちゃん！

津田にはいろいろな場所があるね。たくさんの方が関わって町を支えているんだ。

⑤道徳「わたしたちの海 瀬戸内海」

ねらい 教材から瀬戸内海の特徴や美しさ、すばらしさに触れ、津田町のよさや美しさを考えることを通して、ふるさとを愛し、大切にしていこうとする態度を育む。

学習活動	児童の意識の流れ	「地域道徳学習」の流れ
<p>【問題をもつ】 「津田町は好きですか？アンケート」や「津田のいいところ見つけ」について思い出しながら、学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津田は遊ぶところがあるから好きだな。 津田はおいしいごはん屋さんやお店がたくさんあるから好きだな。 それ以外にいいところはあかな。 <p>ふるさと津田町への「好き」を広げよう。</p>	<p>【問題をもつ】 生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点で見た課題を提示する。(自分ごととして考える視点を築く)</p>
<p>【追求するⅠ】 (1)教材文を読み、津田の海も瀬戸内海の一部であることを知る。 (2)主人公「ぼく」が瀬戸内海について話を聞き驚いたときの気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津田の海って、瀬戸内海の一部なんだ。知らなかった。 たくさん魚がとれるんだ。→命が生まれる場所 数えられないほどの島があるんだ。→他にない景色が見られる場所 潮の流れも他の海とは違うんだ。→他と違う特徴がある場所 瀬戸内海ってすごい。・海って全部がそうなのかな。 	<p>【追求するⅠ・Ⅱ】 教材(道徳の資料等)の中心場面を通して、価値理解(郷土愛等)を図り、道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を高める。(価値の一般化、価値の内面自覚)</p>
<p>【追求するⅡ】 ふるさと津田町の自然のよさや美しさを話し合う。</p> <p>【つなげる】 松原清掃についての思いやこれからの津田町への思いをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 松原には、大きくて立派な松がある。 ハマヒルガオやカニなど、きれいな植物や生き物がたくさんいていいな。 <p>津田のいいところに海や松原も入り、「好き」が広がった。津田の町を一生懸命掃除して守ってきたい。</p>	<p>【つなげる】 自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題とをつないで、解決の見通しをもたせる。(自分の解決の見通しをもつ)</p> <p>津田のいいところを新たに見つけて、「好き」が広がった!</p>

⑥生活科「松原・海岸清掃」

松葉を集めてきれいになりました。また、松原清掃に行きたいです。

いっぱい集めてきれいにしたので、松原さんもよろこんでいると思います。自分の心もきれいになりました。

たくさんたくさん集めました。いっぱいあけをかきました。

津田のいいところに海や松原も入り、「好き」が広がったよ。津田が好きだし、大切にしていこうという気持ちがふえてきたよ。

(実践の成果として)

- 町探検での思い出を写真や話合いを通して、振り返ることができ、児童一人一人の津田町に対する思いや魅力に感じていることを引き出すことができた。
- 津田町のよさとして「地域で生活している人と自分たちとの関わり」や「地域に寄せる思い」に気付くことから、一層ふるさと津田町に愛着をもち、大切にしていこうという心情を高めることができた。

第3学年の実践「働く人の思いを知ること、津田町の名物・特産物をもっと好きになろう（産業・文化）」

1 学期総合「津田町の名物・特産物を調べよう」

風呂農園、風呂さんの直売
みんなに「おいしい」「あまい」と言ってもらってほしい。そんな気持ちでトマトを育てています。

・どれもきれいなトマトでおいしそうでした。
・たくさん工夫をして作っているトマトはおいしかったです。

津田町には、トマト農家の風呂農園があるよ。どれも、甘くて、大きくて、おいしそうだよ！

① 総合「津田町の名物・特産物を調べよう」

・小魚にもたくさん種類があることが分かりました。
・もりめんモンスターがたくさんいるんだなと思いました。

・ちりめんがおいしかったです。
・こんなにたくさんあってすごいです。
・手作業で食べられないものを取り除いておどろきました。

津田町には自慢できるような名物や特産物があるんだな。たくさんの人に津田町のよさを知ってほしいな。

② 総合「津田町のいいところを絵に表してみよう」

津田町のいいところを、みんなに知ってほしいです。

津田町のいいところが、たくさんの人に伝わらいいなと思います。

自分たちのかわいい絵が、商品のシールになるのがうれしい。ほかのかわいいシールをはった商品が全国に売られるのが、とても楽しみです！

木村海産の商品パッケージデザインを考えよう。みんなに津田町のいいところを伝えよう。

(実践の成果として)

- 「香川の味を守る」は地域とつなげやすい教材であった。
- 児童の記述や発言に「見学した風呂農園や木村海産でも同じような思いで働いていた人がいたのではないか。」「自分たちの表現物には働く人の思いは書かれていないな。働く人の思いに迫る質問を考えてみよう。」とあり、見学の際の新しい視点を獲得することができた。

③ 道徳「香川の味を守りたい」

ねらい おじいさんの思いに共感することを通して、おじいさんが守りたかったものは何かを考え、目標や夢に向かって努力しようとする心情を育てる。

学習活動	児童の意識の流れ	「地域道徳学習」の流れ
【問題をもつ】 津田町の特産物について発表し、学習課題をつかむ。	・津田町ではどんなものが作られているのかな。 おじいさんが長くかまぼこ作りを続けることができていひみつを見つけよう。	【問題をもつ】 生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点で見た課題を提示する。(自分ごととして考える視点を築く)
【追求するⅠ】 教材文を読んで話し合う。 (1)工場を続けるうえで、おじいさんが苦労したこと (2)香川の味を守るために工夫したこと	・70年以上も作り続けているよ。 ・手作業で作っているよ。 ・工場は暑くて大変だよ。 ・毎日、朝早くから夜遅くまで働いているよ。 ・新しい機械を入れたり、外国のすり身を混ぜたりして値段を上げないようにしたよ。 ・地元野菜や肉を混ぜたり、味見をしたりするなど研究を重ねたよ。	【追求するⅠ・Ⅱ】 教材(道徳の資料等)の中心場面を通して、価値理解(郷土愛等)を図り、道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を高める。(価値の一般化、価値の内面自覚)
【追求するⅡ】 おじいさんの思いについて話し合う。	・おじいさんは、お客さんの喜ぶ顔を見るのが生きがいなんだね。 ・ふるさと香川の味を守るために、努力を続けることができたんだね。	【つなげる】 自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題とをつないで、解決の見通しをもたせる。(自分の解決の見通しをもつ)
【つなげる】 これまでにインタビューしたことや表現物を振り返る。	質問紙を見ると、仕事や津田町に対する思いも話してくれているね。	見学に行ったお店の人のように、思いをもち、目標に向かってあきらめず努力を続けたいな。
【つなげる】 1時間の活動を振り返る。	・自分の決めためあてに向かってがんばりたい。 ・津田町で努力を続けている人の思いも、調べたい。	

④ 社会「店ではたらく人」

いつも行っているマルナカの工夫が分かってうれしかったです。

1日に1000人もお客さんが来るなんて思ってもみなかったです。

お客さんに来てもらうためのいろいろな工夫があって、おどろきました。

いつも利用しているスーパーマーケットに津田町で作られているものが置いてあったよ。そこで働いている人の思いが分かったし、たくさんお客さんが来るための工夫もあったよ。

⑤ 総合「津田町の名物・特産物を調べよう」(11月)

「働く人の思いに迫っていく」という視点をもって、見学やインタビューをするよ。

三好松月堂 高原精肉店 安岐水産

第4学年の実践「郷土の環境をよりよくするために、自分ができることを考えよう（環境）」

①理科「あたたかくなると」

根上がり松もあつたよ。



校庭には松が、学校園にはいろいろな草や生き物がいたよ。松原や海岸の様子も見に行きたい!

「ハマヒルガオ」を見つけたよ。



ハマエンドウ

春になってあたたかくなると、植物や動物の様子はどうに変わっているのだろうか。松原や海岸の様子も見に行ってみよう。「わたしたちの校歌」の歌詞にある、「ハマヒルガオ」を見つけたよ。

②道徳「わたしたちの校歌」

総合「わたしたちの校歌」に込められた思いを全校生に伝えよう

津田小学校校歌の作詞・作曲者 白川恵介先生



津田小学校校歌には
1番：津田のましが感じられるように。
2番：高遠と仲よくして遊みたいという願いが込められているよ。

津田小学校の校歌は、18年前にできました。「校歌っぽくない、カッコいい校歌を作りたい。」という気持ちで、有詞・作曲を任せました。授業の中で出てくる「ハマヒルガオ」はどの理由も家畜を「飼育」だったんです。

校歌の歌詞に「ハマヒルガオ」や「根上がり松」が、出てるのはどうしてかな。白川先生に話を聞いてみよう。

津田小学校校歌には
歌詞に「ハマヒルガオ」が入っているの。ふつう、浜の上では植物を育てないけれど、「ハマヒルガオ」は力強く生きている。この「ハマヒルガオ」のように丈夫に力強く生きてほしいという願いが込められていたの。

③学校行事「海岸清掃」

ごみ拾いのボランティアをしている人がいるんだね。砂浜の環境を守っていききたいという地域の人たちの思いが伝わってきたよ。



ハマヒルガオが育つには、砂浜の美しい環境を守っていく必要があるよね。でもきれいに見える海岸にもごみがたくさん落ちてくるよ。

近所のおじさんは、毎日海岸のごみ拾いをしているよ。

うちのお母さんも、時々ごみ拾いをしてるよ。

お母さんや近所のおじさんは、どんな思いでごみ拾いしているのかな。

④総合「海岸の植物を調べよう」

曹川の水辺を考える会 吉田 一代先生



ハマヒルガオの種は中が空気で水に浮くんだよ。種は海の上の空気に移動するよ。とても生命力があるんだね。

ハマヒルガオを通しての宝物である「津田の松原」に興味をもち、大切にしようと思う気持ちが育つことが伝わってきました。

自然豊かな「津田の松原」が100年後も現在の姿で残ることを願っています。

自分たちにもできることはないかな？

ハマヒルガオには「神」らしい愛情や休息などの花言葉があるよ。だから津田の町花に選ばれたのかな？

これからもハマヒルガオを大切にしたいな。みなさん、ぜひ津田の松原に行ってみよう。ハマヒルガオを観察してみてください。

浜辺という、植物が生きていくには厳しい環境の中で、ハマヒルガオは地下水をみんなに分け合ったり、潮に流されて遠くまで運ばれるのを耐えながら生き残るための工夫をしているよ。

⑥総合「地引き網体験」

たくさんのお魚の生活を味わいたいです。みんなにポイントをつけてもらってからはじめます。



漁師さんが「自分の好きなことはあきらめない。」とおっしゃっていたので、ぼくも野球はあきらめないと思いました。

タイ、タコ、さらにエイなどもいて、瀬戸内海はすごいなあと思いました。

津田の海ではこんなに魚がとれるんだ。でも、ごみが多くて漁師さんが困っていたわ。

(実践の成果として)

- 総合的な学習の時間の取組と道徳の授業を関連付けて学習を進めることができた。
- 地域の良い点と問題点を体験的な学習を通して学んでいくことで自分ごととしてとらえ、今後自分がどのように行動していけば良いのかを考え直す機会になった。
- 地域の人材開発を進めることができた。今まで以上に諸団体との関係をつなぐことができた。

⑦道徳「琵琶湖のごみ拾い」

ねらい 琵琶湖のごみ拾いをしているおじいさんの話を聞き、自分もごみ拾いをするようになったすみ太の姿を通して、気持ちよく働くために大切なことを考え、進んで動こうとする態度を育てる。

学習活動	児童の意識の流れ
【問題をもつ】 学校や地域のためにしていることをふり返し、学習課題をつかむ。	・めんどくさいと思いながら働いたこともあった。 ・仕事をやり終えると気持ちがよくなった。 ・気持ちよく働くことのよさとは何でしょう。
【追求するⅠ】 教材文を読んで話し合う。 (1)おじいさんの言葉にびっくりしたすみ太はどんなことを思っていたのか。 (2)ゴミを拾ってどうして気持ちがよくなったのか。	・自分だったら汚いから絶対に拾わない。 ・自分が捨てたわけではないのに。 ・なんで、嫌がらずにごみ拾いをしているの？ ・ごみが二つも落ちてなくてきれいになった。 ・進んでごみ拾いをして琵琶湖がきれいになり、達成感を感じた。 ・力を合わせると、一人ではできなかった。
【追求するⅡ】 働くことの喜びについて考える。	・人や自然のためになることをするのは気持ちのいいことだ。 ・みんなで力を合わせることで、誰かの役に立てる。
【つなげる】 6年生の話を聞き、これからの自分ができることについて話し合う。	・地域の清掃活動に参加してみよう。 ・海や松原のことを地域の人に伝えたい。 ・6年生のように、地域のイベントに参加して、津田町を盛り上げたい。

「地域道徳学習」の流れ

【問題をもつ】 生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点で見た課題を提示する。(自分ごととして考える視点を築く)
【追求するⅠ・Ⅱ】 教材(道徳の資料等)の中心場面を通して、価値理解(郷土愛等)を図り、道徳性(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を高める。(価値の一般化、価値の内面自覚)
【つなげる】 自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題をつないで、解決の見通しをもたせる。(自分の解決の見直しをもつ)

「みんなのために進んで動いて気持ちがいいんだ。」実際にやってみよう。

第5学年の実践「だれにもやさしい「津田の松原」にしよう（福祉）」

①総合「車いす、お年寄り体験をしよう」

体験して、体が重かったし、階段を上る時や、服を着る時など、足が動かなくて大変だった。

お年寄りの人を介助する時は、優しく気をつけて言葉にならないようにしたい。

車いすのおももりを入れていたのが重かった。そのおもりで、車の前に座り込んだ。

車いすでロッカーのランドセルを取るのが難しかった。手を洗うのも難しかったけれど、トイレに座るのも難しかった。

せまいところやみがあるところに行くのが、すごくつらくて大変なことに気付いた。

これからは、優しい人やお年寄りに寄り添って対応したい。

障害がある人や、高齢者はどんなことに困っているのだろう。

②総合「耳せん体験をしよう」「手話体験学習をしよう」

自分の声が聞こえないのが不安ということが分かった。これからは、工夫して互いの不自由な人やお年寄りに優しく、工夫・・・顔に書く。大きく、ゆっくりしよう。

高い文字の手紙は難しいということが分かった。ぼくも、みんな手紙をたくさん書きたいと思った。

誰かさんを呼ぶての手話体験学習(9/12)

自分勝手な行動でなくって不安だったから、互いの不自由な人の不安をできるだけ除きたい。自分がつらかったから、優しく話したい。

耳が不自由だというハンダナをしている人がいたら、声をかけたい。災害時や事故などの情報を伝えたい。

③総合「認知症について知ろう」

認知症の人がいたら不安です。誰と誰が話せばいいか、一緒に話す。優しく見守ったり、ゆっくり声をかけることを意識したい。

認知症は病気でなく、忘れてしまっただけ。優しく話せばいい。自分たちが優しく話せばいい。

もし、言葉の代わりに認知症になったら、あまり不安を感じないで優しく話そう。言葉でなくても、思いやりに支えたい。

認知症だからといって、特別なことをするわけではない。周りの友達にすることと同じだよ。

(実践の成果として)

○ 社会福祉協議会や学校支援ボランティア、さわやか荘など、地域の人の協力を得て、高齢者体験や車いす体験、認知症サポーター養成講座を行った。総合的な学習の時間の学びと道徳の価値内容に関連させることにより、総合的な学習の時間に学んだことを深めることができた。また、地域の人との交流を通して、自分たちもたくさんの人に支えられて生活していることに気付くことができた。

④「道案内」

ねらい 「ぼく」たちと中学生の道案内のしかたの違いなどを通して、親切な行いをするとき大切なことは何かを考えることで、相手の状況や気持ちを考え、進んで親切にしようとする実践意欲を育てる。

学習活動	児童の意識の流れ	「地域道徳学習」の流れ
【問題をもつ】 福祉体験学習で、誰かにした親切について振り返り、学習課題をつかむ。	・親切にしたつもりだけど、あまり喜んでくれなかった。 親切な行いをするとき大切なことは何だろう。	【問題をもつ】 生活科・総合的な学習の時間等から、学ぶ価値内容の視点で見た課題を提示する。(自分ごととして考える視点を築く)
【追求するⅠ】 教材文を読んで話し合う。 (1)「やっぱり、いいことをした後は気持ちがいいなあ。」木村君の気持ち (2)「ぼくたち少し足りなかったのかな。」木村君の気持ち (3)木村君の気持ちはどうして変わったのかを考える	・親切なことをすると、気持ちがすっきり。 ・おばあさんを助けられてよかった。 ・結局、おばあさんを助けられなかった。 ・自分たちの親切は、本当に親切なのかな。 ・自分の親切が足りなかった。→反省でも、行動したことは悪くない！	【追求するⅠ・Ⅱ】 教材(道徳の資料等)の中心場面を通して、価値理解(郷土愛等)を図り、道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を高める。(価値の一般化、価値の内面自覚)
【追求するⅡ】 自分たちがした親切をよりよくするために大切なことを話し合う。	・自分の考えばかりでは、いけない。 ・何が相手のためになるのかを考える。 ・相手の気持ちを考えて行動することが大切だ。	【つなげる】 自分ごととして、学んだ価値内容と生活科・総合的な学習の時間等の課題とをつないで、解決の見通しをもたせる。(自分の解決の見通しをもつ)
【つなげる】 今まで書き溜めてきた福祉体験学習の感想を振り返る。	わたしたちの感想にも、今日話し合っただけの親切をよりよくするために大切なことがあったよ。	「よりよい親切」とは、相手の気持ちに寄り添った行動なんだね。
【つなげる】 1時間の活動を振り返る。	・次は、何が相手のためになるのか考えよう。 ・相手のことを考えて行動に移すことが大切だ。	

⑤総合「アイマスク体験をしよう」「点字体験学習をしよう」

アイマスク体験をして、目の不自由な人の視力を感じる(9/27)

点字は、右から左へ打っていくよ。

点字は、打つ回数が多いとゆっくりと打てるよ。

点字についてもっと知りたかった。

目の不自由な人がいたら、優しく声をかけ、相手の支えたいです。相手の気持ちも考えたいです。

相手の支えられないように、・・・相手の気持ちを考えた「パワーアップ」が、ステキでした。

目の見えにくい人の声は、一番声かけが大切だと思いました。どこに行きたいのか、どうしたいのかを聞いて、あせらず相手と安心できるようにしたい。

ここに手すりがあるよ。ここに障子があるよ。ここに障子があるよと高いながら、障子ながらいくと安心していましたよ。

⑥総合「だれにもやさしい津田の松原」実現に向けて活動しよう

行政相談(総務省 四国行政評価支局)
 日時: 12月13日(金) 13:35~15:15
 会場: さぬき市立津田小学校

だれにもやさしい津田の松原にするために、自分たちにどんなことができるかな?

ウ 自分の役割を自覚し、他者を尊重し合うペア学年での交流（なかよしタイム）の充実

・ペア学年グループで撮った写真の掲示

4月に行った顔合わせの時にペア学年グループで写真撮影をした。その写真に名前を載せ、各教室で掲示をした。まずは、同じグループの友達の名前を覚えることで、距離を縮めていったようである。

・なかよしタイムの計画

毎月の活動1週間前に計画を開始し休み時間を使って話し合ったり、下級生にインタビューしたりしながら、活動内容、活動場所などを決めた。必要に応じて班長が集まり、活動場所や活動内容の調整を行った。

・なかよしタイムでの活動

A 教室・体育館 B 教室・運動場 C 教室・プレイコート・運動場の3つをペア学年ごとにローテーションして活動した。蛇が出ない時期は、松原で活動するグループもいた。松原を開放した時には、松原で活動を楽しむ子どもたちが多かった。下学年とコミュニケーションをとりながら活動を進めていた。活動からの帰りに、下学年の友達と手をつないで帰ってきたり、おぶって帰ってきたりする姿が見られた。

・なかよしタイムの振り返り（活動後）

「〇〇さんが、ずっとにここにこしてよかったです。」

「みんなとできて楽しかった。」

「〇〇さんが楽しそうにしてよかったです。」

「お兄ちゃんの投げたボールが速かった。すごい。」

「仲が深まってよかったです。」

「優しくしてくれてうれしかった。」

「一年生と一緒に羽根つきができて楽しかった。」

「1年生が笑っていてよかったです。」

「〇〇さんのおかげで、班が明るくなった。」

「お兄ちゃんがいっぱいイラストを調べてくれてうれしかった。」

「2学期より、仲良く行動できてよかったです。」

「3年生が楽しいと言ってくれてよかったです。」

振り返りを通して、子どもたちが「友達のいいところ」を見つけたり、「自分の成長の過程」を実感したりすることができた。→ **道徳意識調査の「自分にはよいところがある」の項目が改善**された。

ペア学年グループの写真を掲示



2年生

5年生



エ 「津田町が好き！」という思いを深めるための取組

・地域を生かした体験活動の工夫

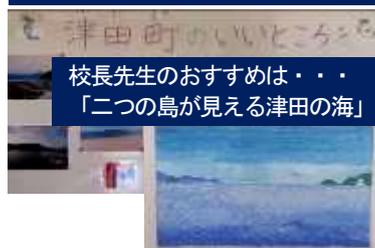
今年の夏休みは、全校生へのミッション「津田町のいいところを見つけよう！（絵日記）」という課題を設定し、津田町の自然や産業、施設、街並み、遺跡、文化財、名産品、行事、人物など様々なものの中から、いいなど感じたものを絵日記ふうに表示した。普段は何気なく見過ごしていても、改めて見直してみると当たり前にあるものの中によさを感じたようである。この課題を通して、地域に愛着をもち、自分たちの生活や地域をよりよくしようという思いにつながった。

・自己の変化を見つめる振り返り

1学期に、「津田は好きですか？」アンケートを全校児童に実施した。肯定的な回答をした児童の割合は、全校児童の99%だった。好きな理由として挙げられた中で多かったキーワードは、「ねこ海レストラン」「いろいろ」「松原」「自然」と、津田町にある自然や店であった。

この好きな理由が具体を伴った明確な理由に変化するために、地域道徳学習単元計画にある2学期の体験活動と、道徳で行う補充、深化、統合を効果的に行い、2学期末に行うアンケートで、好きな理由の明確化について検証した。

全校生への夏休みミッション
「津田町のいいところをおしえてね」



校長先生のおすすめは・・・
「二つの島が見える津田の海」

みんなは どう？



2学期末に行ったアンケートでの「津田が好き」の理由

- ・松原清掃に行った時に、風が気持ちよくて、松の中で海を見て魚も見ることができたから。
- ・夏休みに泳ぎに行った時に、海がきれいだと思ったから。
- ・町探検に行った時に、3つのお店に行って、瀬戸内グラノーラがおいしかったから。
- ・町探検で行った、松原にある公園が楽しいから。
- ・松原に行った時、遊具や鬼ごっこをして楽しかったから。
- ・おじいちゃんと海沿いを散歩していて、たくさんのお店を見てワクワクしたから。
- ・転んだ時に大丈夫?とってくれるなど、みんなが心優しいから。
- ・小さい頃から津田の海で遊んだり、津田の人にやさしくしてもらったりして育ったから。
- ・津田まつりの時に海辺で花火を見たり、友達とおしゃべりしたりしているうちに、どんどん津田が好きになった。学校の授業を通して、いろいろなことが分かったから。
- ・住んでいるのもあるし、夏休みにいろいろな場所を回って、津田の魅力をたくさん知っているから。
- ・朝、登校の時、ハマヒルガオ歩道橋の上から見た国道11号の景色がずっと観ていられるから。
- ・津田町の活性化のために頑張っている人たちのお手伝いをしたいし、他県の人が知らない津田のいいところをもっと探したいと思うから。
- ・1学期の総合的な学習の時間でインタビューした、津田町を元気にしている人や店がたくさんあるから。

「津田が好きな理由」に、自分が1学期や夏休みに体験して気付いたこと、小さい頃から温めてきた自分のお気に入りの場所が挙がってきた。なんとなくではなく、具体が伴った明確な理由に変化してきた。

オ 家庭・地域社会とのつながりを深める「道徳の日」の充実

・学校全体で取り組む「道徳の日」の計画・実践

「道徳の日」年間計画をもとに、体験活動後の感想や気付き等について、ワークシートに絵日記風にまとめた。それを家に持ち帰り、保護者に見ていただいた。活動の様子が分かるだけでなく、保護者からの感想が子どもたちの励みになっている。

「道徳コーナー」担当学年			
担当	学年	内容	担当
1・2年	3・4年	5・6年	7・8年



・学校だよりに道徳コーナーを設け、「道徳の日」の取組を家庭・地域に広げる。

毎月、担任以外の教員（担当学年）を中心に、体験活動で感じた子どもたちの声や保護者の感想等を写真と共にまとめている。人によって違う様々な感じ方を共有することができる。



② 「単時間道徳学習」の在り方を、「自分ごとの学び」の視点で見直し、授業を工夫し、質的改善を図る。

ア 心を育む「単時間道徳学習」の見直し、充実

昨年度末の道徳意識調査から、全校で見ると「道徳の授業が好き」「きまりを守る」「自分と違う意見を考えるのは楽しい」「自分によいところがある」に課題がみられた。そこで、教師の振り返りから以下の項目を今年度の改善点として挙げた。

- ・「生活、総合」での体験を振り返る導入、「生活、総合」の実践につなげる終末の工夫
- ・教材の読み取りの工夫（追求するⅠの効果的な方法）
- ・追求するⅠ（教材で考える）から追求するⅡ（自分ごとで考える）へのつなぎ
- ・追求するⅡに時間をとって考えるための、時間配分の工夫
- ・効果的なICT活用

イ 「4つの学習過程」の実践

- ・「問題をもつ」…共通学習課題を設定する。
- ・「追求するⅠ」…主人公の言動や生き方から道徳的価値を追求し把握する。
- ・「追求するⅡ」…資料から離れて「自分ごと」として改めて捉え直す。
- ・「つなげる」…実践への意欲化を図る。

児童の実態から、資料から離れて「自分ごと」として考えを深めていく「追求するⅡ」に重点を置いた「4つの学習過程」を提案した。

ウ 単時間道徳学習の授業改善（具体的な取組）

第4学年「学級会での出来事」【B(10)相互理解、寛容】

（出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」4年）

「問題をもつ」



・児童に他人と意見が違っていた経験について尋ねた。上手に意思疎通をすることで合意形成を図ることができた児童がいる一方で、相手を責めたり、批判したりした経験がある児童もいた。いくつかの意見を取り上げることで、本時の学習をより身近なものとして捉えることができた。

・ロイロノートの提出箱に意見を提出することで、それぞれの率直な思いを共有することができた。

「追求する」



・「歌の集会のほうがいいな」と思っていたさとみが、言い出せなくなってしまったのはどうしてか話し合った。さとみの揺れ動く気持ちを考えることによって、言い出せなくなってしまった理由を考えることができた。

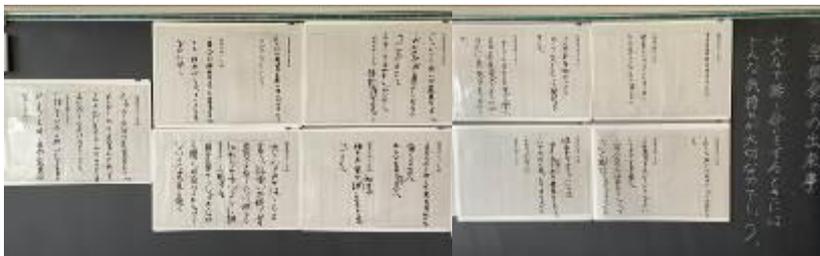
・友達同士の対話によって、考えを広げることができていた。



・教材の内容を自分ごととして捉えたうえで、実際に話し合いを行うときにはどんな気持ちで話し合えばいいかについて考えた。まずは自分の考えを書き出し、ロイロノートを活用して全員の意見を共有した。

・グループに分かれ、具体的によりよい意見の伝え方、聞き方を考え、ボードにまとめた。教材から学んだことを意識しながら話し合い活動を進めることができていた。

「つなげる」



・グループで話し合ったことをボードに書き出し発表した。上手に話し合うためのコツを考えているグループが多かった。相手のことを理解し、受け止めようとする雰囲気づくりも大切なことを付け加えてまとめた。

【意見を言うとき】

・こそこそ言わず、手を挙げて、相手に伝わるように説明する。

【意見を聞くとき】

・目を見てうなずきながら聞く。
・友達の発表中に反対意見を言わない。

→クラス全員が意見を出せる雰囲気にしていこう。

第6学年「クジラとプラスチック」【D(20)自然愛護】

(出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」6年)

「問題をもつ」



・6月に行った海岸清掃を振り返り、自然の物だけでなく、人が使ったごみがたくさん流れ着いていたことを思い出せるように、活動の写真を提示した。

・流れ着いたごみの中でも、プラスチックごみが多く、そのプラスチックは自分たちの身の回りで多く使われていることを確認することで、課題を自分との関わりで捉えることができた。

「追求する」



・デジタル教科書を使うことで、着目してほしい部分を拡大することができ、クジラを作っているごみの中に自分たちが普段使っているプラスチック製品がたくさんあることに気付いた。そのことで、資料の話が他の国の話ではなく、自分の生活とつながっている可能性があることを自覚し、作り手のメッセージを自分ごととして考える姿が見られた。「動物の命の尊さや環境のことを考えて生活してほしい。」「今起きていることを知り、ごみを捨てないでほしい。」「ごみを捨てるという行動の重みを考えてほしい。」等、多様な考えが出された。



・自然を大切にすることについて、自分にできることを考え、グループで交流した。その際「ごみを全く出さないで生活することは可能ですか。」と問いかけて、児童の心に揺さぶりをかけ、「自然と共に生きていくこと」について考えを出しながら話し合った。グループ学習を取り入れることで、全体の場で発言することが苦手な児童も、自分の考えを友達に伝えることができていた。

「つなげる」



・終末に津田の海やドルフィンセンターの写真を見せながら、自然と人間のつながりや、目の前の海が世界とつながっていることを全体で共有した。海岸清掃等の体験から、「自然を守るためにごみを拾う」という意識が子どもの中にあったが、「ごみを分別したりリサイクルしたりしたい。」「物を大切に使いたい。」「木や紙製品を使うようにしたい。」等、自分の生活との関わりで自分にできることを広い視野で考えられるようになった。

特別支援学級に組「きまりのない国」【C(1)規則の尊重】

(出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」3年)

「問題をもつ」



- ・本時まで、きまりを守れていない時には、指導を行い、**きまりの大切さを日ごろから考えることで、本時の内容を自分ごととして捉え**られるようにした。
- ・他教科で学習したプールのきまりの板書を残しておき、本時の教材「きまりのない国」につなげた。

「追求する」



- ・教材内や発問の言葉が理解できない可能性があったので分かる言葉に置き換え、理解できるようにした。
- ・児童に親しみのある漫画のような教材なので、**ICTを活用しコマを一つ一つ読み、教材を確認**した。登場人物の思いや気持ちの変化が分からないときには、教材に戻り、その場面を探せるようにした。



- ・自分の思いを言葉にすることが難しいので「**気持ちカード**」を活用し、**登場人物の気持ちの変化や自分の気持ちを表現できるように**した。
- ・児童と一対一の授業になるので、多様な意見が出ず、広がりにくいので、児童への問い返しや児童が考えられるような言葉がけをして、できる限り考えを深めることができるよう工夫した。

「つなげる」



- ・生単で学習した**板書や本時の振り返り**をし、**これからの自分について考えた**。その中で自分の気持ちを言葉にすることが難しい場合には、**児童の思いを聞きながら言葉や文章に**していった。
- ・ワークシートに書く際には、文字が抜けていたり、文章に書けなかったりすることがあるので、書き方の例を示したり声に出して書いたりするなどの支援をした。

エ 全職員で「自分ごとの学び」の姿を共有し、それが見られた授業実践の交流

・ 学びのモデル（授業づくりのポイント）の作成

授業づくりのポイントについては、「みんなで学びのモデルを完成させよう」のもと、実践をして見出した「四つの学習過程」でのポイントについて、全職員で紹介し合って共有し、児童の視点で作成した。その学びのモデルは、職員が見やすいように、職員室に掲示して活用した。



・ 模擬授業形式による事前研修

事前研修では、授業者が作成した指導案をもとに、

- ◇ 子どもたちの「どんな姿が見えたら」「どんな意見が出たら」自分ごとになっているのかという、自分ごとで考える子どもの姿
- ◇ 子どもが自分ごととして考えるための手立て
- ◇ 最初の考えと、学びの後の考えとの変容が見られるような工夫
- ◇ 考えを可視化する手立て

の4点を討議の視点として定め、教員が子ども役をしながら、模擬授業形式で行った。

第4学年「琵琶湖のごみ拾い」【C(13) 勤労、公共の精神】
(出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」4年)

【事前研修後の流れ】

問題をもつ

- ・ 学校や地域で働き終えた後の思いを振り返り、子どもたちに課題意識をもたせる。(ロイロノートで、事前に意見の共有をしておく。)

(児童の意識の流れ)

めんどくさいと思いながら働いたこともあったな。
仕事をきちんとやり終えると、気持ちがよくなったな。
教材「琵琶湖のごみ拾い」を通して、気持ちよく働くよさとは何かを考えてみよう。

追求するⅠ

- ・ 教材（タブレットで）を読んで、話し合う

(児童の意識の流れ)

すみ太はおじいさんに、どんなことを思っていたのだろう。
おじいさんは、どんな言葉を言ったのかな。
おじいさんの言葉にすみ太がびっくりしたのはなぜだろう。
→自分なら汚いから拾わないな。自分が捨てたわけではないのに、なんで嫌がらずに、ごみ拾いをしているのだろう。

- ・ すみ太やみんなは、ごみを拾ってどうして気持ちよくなったのかを考え、クラゲチャート（まなボード）を使って交流する。(個人 → グループ → 全体)

(児童の意識の流れ)

ごみが1つも落ちてなくて、きれいになったから。
進んでごみ拾いをして琵琶湖がきれいになり、達成感を感じたから。
みんなで力を合わせることで、1人ではできないことができたから。

追求するⅡ

- ・ 「香川の水辺を考える会」の方の説話（手紙）を読み、地域のために働くことの喜びについて話し合う。

(児童の意識の流れ)

人や自然のためになることをするのは、気持ちのいいこと。
みんなで力を合わせることで、誰かの役に立てる。

つなげる

・何年経っても美しい松原や海岸を保つために自分にできることは何かを話し合う。

(児童の意識の流れ)

学校の清掃活動だけでなく、地域の清掃活動に参加してみよう。
海や松原のことを地域の人に伝えて、みんなに大切に思ってもらいたい。

指導、助言

導入でのアンケートで「掃除をしたら気持ちがよい」「気持ちよくない」など多様な考えが出るということ、自然だけではなくて地域と重ねて考える子が出てくる可能性があるということ、説話で香川の水辺を考える会の人の写真や動画を用意するなど、関わりのある人がイメージできると働くことのよさがより伝わるのではないかとということ、自分ができていることを考える時により考えが深まるための問い返しの工夫、クラゲチャート(思考ツール)、背面掲示の効果的な活用について指導、助言をいただいた。

第6学年「ようこそ、菅島へ!」【C(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

(出典:光村図書「きみがいちばんひかるとき」5年)

【事前研修後の流れ】

問題をもつ

・総合的な学習の時間での学びから、子どもたちに課題意識をもたせる。

(児童の意識の流れ)

津田町が大切なのはわかる。でも言葉にするのは難しいね。
だから、教材「ようこそ 菅島へ!」を通して、郷土を大切にすることを考えてみよう。

・事前読みをする。

(児童の意識の流れ)

自分も同じようなことがあった。
同じような気持ちになったことがある。

追求するⅠ

・教材を基に話し合う。

(児童の意識の流れ)

島外から来た人にガイドをしているときの気持ちは・・・。

・島の伝えたいことが後から後からあふれてきたときの順平の気持ちを考え、ホワイトボードを使って交流する。(個人 → グループ → 全体)

(児童の意識の流れ)

好きなものを知ってもらいたい。魅力を伝えたい。
お客さんに褒めてもらえた。
お客さんに褒めてもらって、自分を誇りに思う。

追求するⅡ

・郷土を大切にすることを話し合う。(津田の自慢やいい所を事前に見つけている。)

(児童の意識の流れ)

自分も〇〇をがんばりたい。
自分に何ができるかな。

つなげる

・わくわくフェスティバルの安岐水産の話聞く。(ゲストティーチャーの説話)

(児童の意識の流れ)

わくわくフェスティバルに地元の小学生が参加してくれたことで、来てくれた人や、イベントに関わった人など、多くの人に喜んでもらえたね。わたしたちがしていることは、地域の役に立っているんだね。

・これからの自分の思いを書く。

みんなで、すなはまフェスティバルを成功させよう。
みんなで準備をしてきてよかった。自分もお客さんも笑顔になるといいな。

指導、助言

教材から子どもたちは何を感じ取るのか考える必要があること、総合的な学習の時間で書き溜めた振り返りと自分の思いとをどのようにつなぐといいのか、一人一人の考えを表出させる交流の方法、道徳的諸価値の理解について、子どもたちが安心して発言できる場づくりやICTの活用について指導、助言をいただいた。

・低・中・高学年同士での事前授業公開

事前授業を行う教員は、本時に行う手法を使って授業を行い、参観者は、その授業から本時の授業展開を見直し、子どもたちの反応を確かめた。

第3学年「香川の味を守りたい」【A(5)希望と勇気、努力と強い意志】

(出典：文教社「わたしたちのふるさと香川 3・4年」)

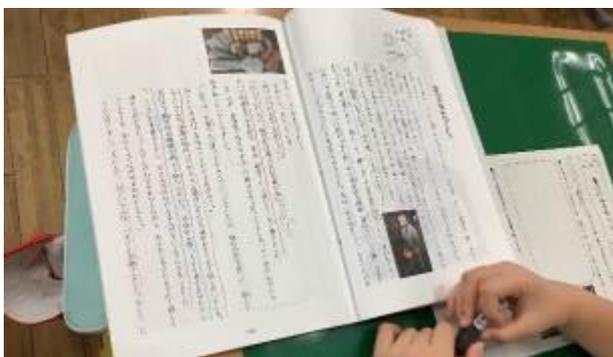
「問題をもつ」



・**ロイロノートの提出箱を活用**し、津田町の特産物を共有することで、課題がより身近なものになるようにした。

・「ちりめん」「しらす」「あげもち」「しょうが糖」などの特産物が出された。わたしたちのふるさとである津田町にもおじいさんの作っている蒲鉾のようにたくさんの特産物があることを確認した。

「追求する」



・**事前読みで線を引いたところ(苦労したこと、香川の味を守るためにしたこと)を共有**することで、おじいさんの思いについて迫れるようにした。

・「ほとんど手作業」「夏は暑い」「冬はしもやけができる」などの苦労が出てきたので、よりおじいさんの立場に立って考えられるように「機械と手作業どっちが大変?」「暑い中ずっとできる?」などと問い返し、苦労はあっても香川の味を守るために蒲鉾づくりを続けた**おじいさんのすごさ**に気付けるようにした。



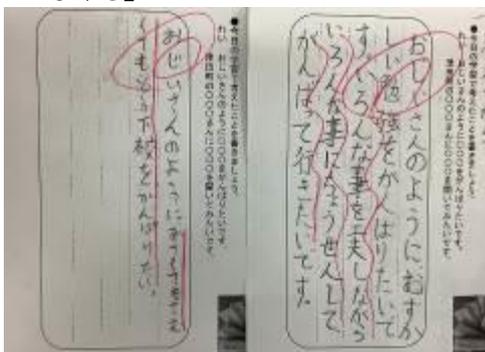
・70年以上も蒲鉾づくりを続けたおじいさんの思いをグループで話し合った。

・**「おいしいと言ってほしい」「たくさんの人の笑顔が見たい」「県外の人にも香川の味を知ってほしい」**などの考えが出された。

・津田町にもおじいさんと同じような思いで働いている人がいないか問い、**これまでの校外学習の質問紙や表現物**を振り返った。

・「甘くておいしいと言ってほしい」「お客さんのことを考えて安心・安全な物をつくる」など津田町で**働く人の思い**にも触れることができた。

「つなげる」



・おじいさんのように苦労しても頑張りたいことや津田町で働く人に聞いてみたいことなどの観点を示し、**自分ごと**で考えられるようにした。

・「冬、寒くても運動を頑張りたい」「津田町のうどん屋さんに話を聞きたい」などの考えがワークシートに書かれた。

指導、助言

「問題をもつ」での子どもたちの課題意識の持たせ方、「追求する」でのホワイトボードを用いての子どもたちの意見交流、子どもたちの多様な考えを認めていくこと、「つなげる」での背面掲示の活用、総合ファイルに書き溜めた質問や表現物の活用、地域道德学習での本時の内容項目の扱いについて指導、助言をいただいた。

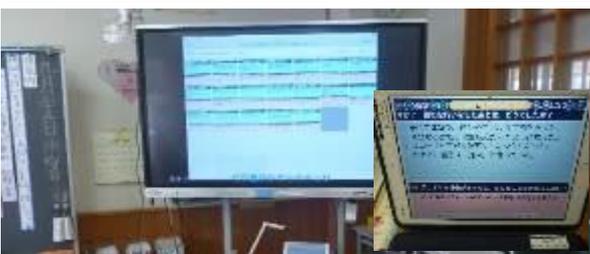
第5学年「道案内」【B(7)親切、思いやり】

(出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」5年)

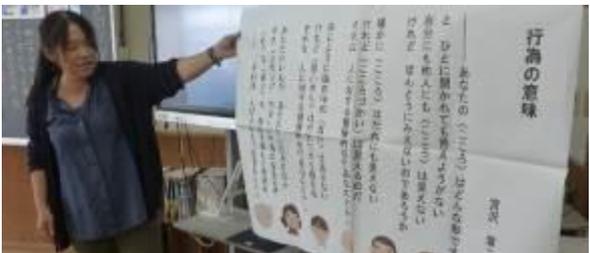
「問題をもつ」(総合的な学習の時間)



「追求する」



「つなげる」



・「みんなにやさしい「津田の松原」にしよう」のテーマのもと行ってきた「地域道徳学習」で**毎回残してきた、「誰かに親切にしたこと」**を振り返った。みんな、誰かに親切にしたことを経験し、なぜかうまくいかなくて、もやもやしている児童が多かった。具体的な場面で自分が行ってきた親切を振り返ることで、「こんな親切な行いをするとき大切なことは何だろう。」という課題に、子どもたちの意識が自然と流れていた。

・事前読みをしておくことで、道徳の時間に自分ごととして考える時間の確保ができた。

・教材「道案内」の主人公の気持ちを考えていく時に、場面絵の横に**心情円を置き、色を変化させることで、気持ちの変化を視覚的に分かりやすいようにした。**

・その変化をもとに、「どうして気持ちが変わったのでしょうか。」という発問へと、子どもたちの意識が自然と流れていった。

・導入で自分が考えた、誰かにした親切な行いを振り返り、次に同じような機会があったら、どんなことを大切にしたいかを考えた。

・**今までどうであったか、これから何を大切にすることを振り返り、導入で考えたことを比べることで、1時間での変化に自ら気付くことができ、自分の成長に気付くことができていた。**

・今までしてきた親切をよりよくしていくために大切なことについて意見を出し合い、共通しているキーワードはという視点でまとめた。

・**背面に今までしてきた福祉体験学習の子どもたちの振り返りを掲示**しておくことで、今日学んだ「相手の気持ちを考える」という言葉は、みんなの振り返りの中にも書かれてあり、**大切な心はみんなの中にもあったのだということに気付いた。**よりよい親切への**実践意欲が高まった。**

・**「行為の意味」を提示**することで、誰かに親切にしたいと思ったとき、どういう行動ができるのか前向きに考えたり、**誰かのために進んで親切にしていこうと思ったりすることが大切なのだという心情が高まった。**終末の振り返りで、「相手の立場に立って、親切にする大切さ」を感じている児童が多くみられた。

指導、助言

「問題をもつ」では総合的な学習の時間で行ってきた課題を本時のめあてとする課題意識の持たせ方、ワークシートの配布のタイミング、「追求する」でのホワイトボードを用いたグループ交流、効果的な全体交流について、背面掲示とつなぐことで大切な心は自分の中にもあったんだという自己肯定感を高める手法、「つなげる」での説話、実体験をしっかりと振り返り、自分ごととして考えられている地域道徳学習のよさについて指導、助言をいただいた。

・自分ごとの学びについて子どもの姿で検証していく研究討議

事前研修会や各学年団での公開授業等で改善されたものを基に授業を行った。授業後の研究討議では、自分ごとの学びについて子どもの姿で検証した。また、香川大学教職大学院 清水頭人准教授、香川県教育委員会事務局 義務教育課、同東部教育事務所の担当指導主事に指導、助言をいただいた。

第4学年「琵琶湖のごみ拾い」【C(13)勤労、公共の精神】

(出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」4年)

「問題をもつ」



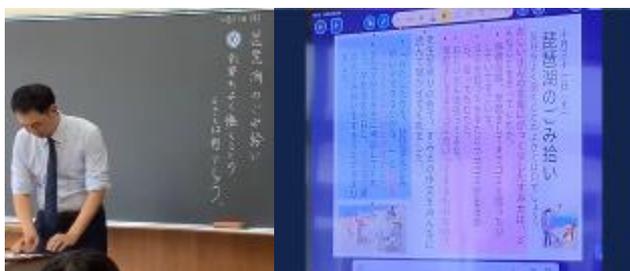
・レーダーチャート「13 進んでみんなのために働く」の項目がどのようになっているか 確認した。

・事前アンケートを共有し、

- ①いつも使う海だから綺麗にしたい。(意欲的)
- ②めんどくさいけど、がんばろう。(プラマイ混合)
- ③ごみを触るの嫌。汚い。(マイナス面) の3パターンに分かれていることを確認した。

①の意見に着目し「気持ちよく働くことのよさ」について考える課題意識をもつことができた。

「追求する」



・教材の主人公に共感しながら気持ちを考えていく場面では、時間短縮のため、子どもから出た意見をロイロノートに教師が打ち込んでいった。

・「達成感」「みんなでやる」という言葉→進んで働く→誰かの役に立っている につながるように、友達同士の対話によって、考えを広げることができていた。



・クラゲチャート(思考ツール)を用いて、子どもたちの考えを引き出した。まとめとして1つに絞っていくのではなく、たくさんの意見に触れ、様々な意見を認めながら、学び合いが進んでいた。

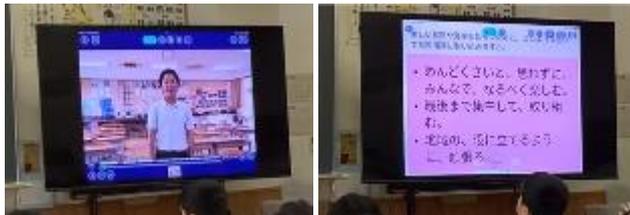
・子どもたちの実態を把握し、「働くのはめんどくさい」という言いにくい意見が出せる学級づくりを行っている。子どもたちは、人間理解がよくできていた。



・子どもの意見を見ると、教材と自分ごとを行き来して、自分ごととしてしっかりと考えることができていた。

・クラゲチャートだけでなく、振り返りの際にも電子黒板等を使うことで、友達の考えが聞きたいという意欲や集中している姿が見られた。

「つなげる」



・6年生に「働くことのよさ」をインタビューした動画を視聴した。身近な6年生の話を聞いて、より自分ごととして考えることができていた。

・動画を見る前に、「みんなが見つけた働くよさを6年生は知っているかもしれない」と見る視点を与え、意識的に見るようにしていた。

(実践の成果として)

- 「わたしたちの校歌」を出発点とし、作詞・作曲者の校歌に込めた思いを知ることで、津田町の豊かな自然に目を向けることができた。4月から本時まで、見通しをもって学習に取り組むことができた。
- クラゲチャート(思考ツール)を活用することで、たくさんの意見が出てくる。意見をまとめるのではなく、認め合うことで、学習課題について多面的・多角的に考えることができた。

第6学年「ようこそ、菅島へ！」【C(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
 (出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」5年)

「問題をもつ」(総合的な学習の時間)



・「津田町を元気にするために、自分にできることを考えよう」のテーマのもと行ってきた「地域道徳学習」で残してきた「どんな思いですなはまフェスティバルの準備に取り組んでいるのか」を電子黒板で振り返った。思いを振り返ることで、「津田町を大切にしている心について考えよう」という課題に、子どもたちの意識が自然と流れていた。しかし、この時点では、子どもたちは「津田町を大切にしている心」について、まだイメージが湧いていないようであった。

「追求する」



・自分ごとで考える時間を確保するために事前読みをした。同じような気持ちになったことがある所に線を引くよう声をかけ主人公に共感できるようにした。
 ・島の伝えたいことが後から後からあふれてきたときの主人公の気持ちを考える際に、「役割演技」を取り入れることで、見通しをもって書く活動に取り組めた。表情や動きにも目を向けて考えることができた。



・島の伝えたいことが後から後からあふれてきた時の気持ちについて、まずは個人で考えた。個人で考える時にイメージが湧いていない児童のために、考えを書いている児童を指名し、それをみんなに紹介した。みんなが自分の考えがもてる支援となった。



・グループになってホワイトボードを用いて考えを交流した。子どもたち全員の思いを言語化し、共有することで、郷土を大切にしている心についての考えを深めていくことができた。
 ・総合的な学習の時間や学校行事の感想をロイロノートに蓄積していくことで、その時の思いを必要に応じて振り返ることができた。



・背面に、今までしてきた活動を、電子黒板にその時の思いを提示しておくことで、今日学んだ「菅島を大切にしている思い」は、みんなの振り返りの中にも書かれてあり、大切な心はみんなの中にもあったということに気付いた。自分にとって津田町を大切にしている心とは何かに気付かせる大きな支援となった。

「つなげる」



・すなはまフェスティバル実行委員長に授業の感想を話してもらった。自分たちの中にもあった津田を大切にしている心を認め、感謝されることで、今までやってきたことに対して自信がもてるなど、活動の後押しをしてもらった。

(実践の成果として)

- 道徳と他教科との関連が分かるように、活動内容や児童の感想をまとめたものを教室に掲示したことで、児童の意識が繋がった。
- 追求するⅡの場面でホワイトボードを用いて、グループ交流を行った。そうすることで、全体の場で発言するのが苦手な児童も自分の考えを友達に伝えることができた。友達の考えを知ることにより、主人公の思いを多面的・多角的に捉えることができた。

・実践の積み重ねにより、自分ごととして考えている児童の姿の明確化

学期末の振り返り（教員）の際に「まんだらチャート」を用いて「自分ごとの学び」を子どもの姿で捉え直すとともに、日々の授業実践を通して「自分ごと」についてのイメージの変容を見ていった。

まんだらチャートを用いて

わかる-		知る-
できる-	自分ごと	知る-
授業のことを思いやる-	考える-	行動する-

左記のような、「まんだらチャート」の真ん中に「自分ごと」を入れ、そのまわりに「自分ごと」から連想することについて書いていった。

そんな簡単に解決しない-	自分だったらどうするのか考える-	悩む-
自分と比べて強を聞く-	自分ごと	自分からないことを相手に聞かそうとする-
友の疑問が湧く-	もっと知りたいたがる-	具体的な答えを考える-

この「まんだらチャート」に書いている「自分ごと」について共有する。

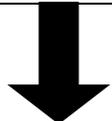
毎学期末に、現教で学期の振り返りをするときに行い、「自分ごと」についての変容を見ていく。

自分ごととして考えている児童の具体的な姿（教師の見取りより：令和6年7月）

赤字・・・今年度、新たに見えてきた児童の姿

導入 （問題をもつ） ／ 課題設定・見通しの場面	児童の具体的な姿	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px;"> <p>「自分ごと」とは、 自分がよりよくなるために学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を自分との関わりで捉える。 ・ 多様な考え方や違いに触れ、悩む。 ・ 自分を知り、これからに生かす。 </div>
展開 （追求するⅠ・Ⅱ） ／ 交流の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは大人が手本を見せる（片付け、見通し、提出期限など） ・ 主体的に考える。 ・ 自分の生活とつないで学習する。 ・ 学習課題に一生懸命取り組む ・ 自分の経験や体験とつないで具体的に考える。 ・ 新たな疑問をもったり悩んだりする。 ・ 学習課題を自分との関わりでとらえる。 ・ 身近な体験活動や生活の中から、課題を見つける。 ・ ゲームを長時間してしまったことがあると、振り返って生活を見直そうとしている。 ・ 家庭環境やふるさとへの考え ・ 学校生活での自分や学級の姿を思い出し、問題意識をもっている。 ・ 自分の良い所や悪い所を認め、よりよくしようと考えている。 ・ 自分やまわりをよりよくしていくことで、充実した学校生活を送ることができると考えている。 	 
展開 （追求するⅠ・Ⅱ） ／ 交流の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物に共感して気持ちを考える。 ・ 自分の考えをもつ。 ・ 自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたりできる。 ・ せまい考え方、物の見方から、どんどん広げていく。 ・ 安心して話したいことが話せる。 ・ 登場人物に自分を投影し、「自分ならどうするか」と考えている。 ・ ペアやグループでの活動で自分の考えを伝える。 ・ 友達の意見や考えをよく聞いている。 ・ 資料の人物と自分、友達と自分の考え等、自分と比べている。 ・ 自分の考えと友達の考えを比べながら深められる。 ・ 友達の考えを聞いて、自分と異なる考えも大切にしようとする。 ・ 人の話をしっかりと聞くことができる。 ・ 悩む。 ・ 相手を認め、意見を受け入れる。 ・ 自分と異なる考えを受け入れる。 ・ 一人一人の多様な考え方や違いに気付く。 ・ 友達の考え（気付き）と自分の考え（気付き）を比べてみる。 ・ 自分の視点だけでなく、他の視点から物事を見つめ考えることができる。 ・ 「あなたは…」といった質問に対し、自分の心に正直に答えられている。 	  

<p>展開 (追求するⅠ・Ⅱ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ、全体、友達と協働し合って、学習に取り組む。 ・価値の実現者の行為から自分の実生活を見つめ直している。 ・相手の考えや思いに興味・関心をもつ。なぜかなど考えたり問うたりする。 ・相手の考えや思いに寄り添う。共感する。 ・自分も我慢しすぎたり、本当の思いをふせたりするのではなく話し合う。 ・もし自分がその立場だったらと、想像力を発揮して、思いを巡らせる。 ・友達の考えに、自分の考えをつなげて広げていく。 ・今までの自分を振り返りながら、これから大切にする心を考える。 	
<p>終末 (つなげる) ／ 振り返りの 場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の学習で分かったことなどをまとめる。 ・学習の活動を振り返ることができる。 ・道徳で学んだことを生活の中で生かそうとする。 ・友達の良い所を進んで見つけている。 ・この授業の学習内容が、これからの自分にどう生かしていけるか考える。 ・自分の生活や将来の自分に生かす。 ・自分なりの思いや自分のことを知る。 ・自分の成長や、自分に何が足りないのかを見つめ直し、把握できる。 ・友達の考えから、自分に取り入れられるものを見つけ取り入れようとする。 ・よりよく生きるために学ぶ。 	



「自分ごと」の学びが、
自分を知ることや、よりよく生きることに繋がる

※「自分ごと」の学びが、前向きに意欲的に活動したり、周りに働きかけたりする姿
↓
自分を知ることや、よりよく生きることに繋がる

<p>日常生活 体験活動につながる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりを守ろうとする ・保健室前は静かに歩く。ろうかを走らない。ルールを守る。 ・清掃時間や生活の中での掃除活動に一生懸命に取り組む ・学級内での配り物や係活動など、自分の役割に責任感をもつ ・ごみが落ちていたら進んで拾う ・友達が困っていたら助けようとする ・自分も友達もけがをしない。 ・体調が悪い人がいる時、たくさんの人で押しかけない。 ・思いやりの心、言葉、行動 ・友達がけがをした時、保健室へ連れていく ・すぐに答えを教えるのが親切ではないと気付いている ・友達と仲よくしようとする ・だれとでも仲よくしようとする ・授業などで学んだことを周りの人に伝えて広める ・自分のやりたいことにチャレンジ!! ・何事にも前向きに積極的に ・勉強をがんばる(分かる) ・何でも楽しめる ・津田のこと、小学校のことで分からなくて不安になっている下級生がいたら教えてあげる ・自分から進んで行動することができる ・間違いを素直に認め、正そうとする ・虫や植物を大切にしようとする ・家族や自分を大切にする ・進んでみんなのために働こうとしている ・教材を通して学んだことを実際に生活で生かしている ・地域の行事に積極的に参加する(祭り、わくわくフェスティバル等の地域行事) 	
---------------------------	---	---

そして、
これらの体験が、将来ふるさと津田町に積極的に
関わる原動力になる！

オ 「ふるさと香川」や「新ふるさとの心」（県教育委員会作成）を活用し、「自分ごとの学び」となるよう地域の実態に応じた内容に再編成

第1学年「津田の松原—海がんせいそう」【C(15) 伝統と文化の尊重、国やきょうどを愛する態度】
(出典：文教社「わたしたちのふるさとかがわ 1・2年」)

「問題をもつ」



・ **海岸清掃をした時の写真やビデオなどを提示**することで、自分は、どんなことをしたのか、どのような気持ちで掃除をしたのか、周りにいた人たちはどのような様子だったのか、思い出せるようにした。
・ **「ごみをいっぱい拾った。」「楽しかった。」「ごみ拾いや掃除が好きになった。」という意見が出て、自分ごととして考える手立て**となり、めあて「海岸清掃を続けてきた人の気持ちを考えよう」につながった。

「追求する」



・ 海岸清掃に関わった人がたくさんいることを捉え、**人物の挿絵を提示しながら確認した**。「ごみがいっぱいあるなあ。」「海岸をきれいにしたい。」など、児童はそれぞれの人の立場になって考えた。
・ 児童から「腰が痛いなあ。」という意見が出た時には、教師が「じゃあ、海岸清掃やめたらいいんじゃない?」と**切り返したり**、「津田の松原をきれいにしたいから。」という意見では、「どうして、きれいにしたいの?」と**より深く考える発問**をしたりした。「**みんなが住む津田町がきれいになったら、嬉しい。**」という気持ちを引き出した。



・ 海岸清掃をする小学生の気持ちを考える際には、**役割表現**を取り入れた。教師がお兄さん役をし、児童が小学生の役をするようにして、自分ごととして考えられるようにした。
・ **児童から出た言葉を価値づけ**し、大切な言葉をワークシートに書くようにした。**役割表現**を通して、「高校生、幼稚園の青組さん、地域の人みんなで掃除をしたから、きれいになった。」「松原がきれいになってすごく嬉しいな。来年もしたいな。」など、**自分がした海岸清掃の活動とつないだ意見**が出た。

「つなげる」



・ **次の松原清掃や海岸清掃に、自分はどんな気持ちで取り組みたいか、自分に生かせることを**考えた。「津田町がきれいになると心もきれいになる。」という児童の意見から「きれいになって嬉しかったから次も頑張りたい。」「みんなで、いい気持ちで掃除をする。」という考えにつないでいった。
・ それぞれの児童が、**自分の考えをワークシートに書く時間を確保し、自分ごととして、心の中でまとめる時間**をとることができた。

(実践の成果として)

- 道徳と、生活科や国語を関連させて学習活動を計画することで、道徳で学んだ価値内容を自分の生活とつないで考え、言葉や文で自分の思いを表現したり、学びの実践化を図ったりした。
- 導入で自分の生活を振り返り、教材で学んだ後もう一度導入での発言を見返すことで、学んだことを「自分ごと」として考えることができた。

第2学年「わたしたちの海 瀬戸内海」【C(15) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
(出典：「わたしたちのふるさとかがわ 1・2年」)

「問題をもつ」



・「津田町は好きですか？アンケート」の結果や夏休みに行った「津田のいいところ見つけ」「町探検マップ」を提示することで、自分は、ふるさと津田町にどのような気持ちをもっているのかを思い出せるようにし、課題意識につなげた。

・これまでは、「遊ぶところがあるから。」や「美味しい店があるから。」という理由で津田が好きと答えていた児童だったが、本時は、津田の自然や美しいものに目を向けさせ、「ふるさと津田への好きを広げよう」というめあてにつなげることができた。

「追求する」



・香川県の地図や写真を提示したことで、児童は、津田の海も「瀬戸内海」の一部であることがわかり、瀬戸内海を身近に感じていた。

・「ぼく」が、どうして驚いたのかを考えた。児童の「たくさんの魚がいるから」という考えには、教師が「命が生まれる場所だね」と付け加えたり、「たくさんの島があるから」という考えには「他とは違う景色なんだね」と返したりすることで、「瀬戸内海ってすごい。」という気持ちを高めることができた。



・津田町のいいところやすてきなところはどこだと思うか、一人一人がワークシートに考えを書いた。全体交流では、児童から、「魚がいっぱいいる瀬戸内海は特別だと思う。」「自分が瀬戸内海というすごい場所の近くにいることを知ってうれしくなった。」という意見など、いろいろな考えが出た。

・教師は「津田町への好きが広がりましたか。」と問いかけ、めあてを振り返った。授業前と後を比べて、「好き」をハートマークで表して黒板に貼った。津田町への「好き」が、さらに広がったことを、黒板を見ながらみんなで確認し合うことができた。



「つなげる」



・終末では、みんなのふるさと津田町への思いをワークシートに書いた。この活動前に11月にある松原清掃と町探検に関わる写真を提示し、自分につなげて考えられるようにした。自分が書いた「津田のいいところ見つけ」を見に行く児童もいた。自分ごととして具体的に考えることができた。

・児童からは、「松原を1学期よりもきれいにしたい。」「ごみを拾って海をきれいにしたい。」「自慢の津田町をみんなで協力してきれいにしたい。」などの意見が出された。ふるさと津田町をこれからも大切にしていきたいという気持ちを高めることができた。

(実践の成果として)

- 身近にある瀬戸内海を取り上げたこの教材を用いたことで、児童が「自分ごとの学び」として、授業に臨むことができた。自分の生活にある美しいものや魅力に関心をもつことをねらいとした。
- 導入では、学校生活を振り返ることができる発問やアンケートなどを取り入れることで、振り返り際には教材で学んだことを踏まえながら「自分ごと」として考えることができた。

カ 自分の心を育てることを意識した個人内評価（自己内評価・振り返り・自己調整力）の工夫

今の自分を見つめる

「道徳で大切にしたい19の心（低）」

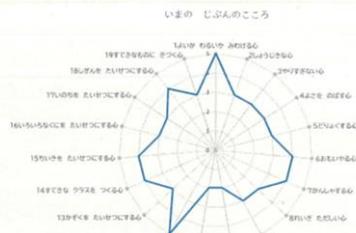
「道徳で大切にしたい20の心（中）」

「道徳で大切にしたい22の心（高）」

を活用したレーダーチャートで自己を見つめ、その個人内評価（自分の得意、不得意）を視覚化した。

じぶんのここを、あつめてみよう（ていびくねん）

項目	得意	不得意
1. 思いやり、助け合える	ある	
2. しゅうじきがある	ある	
3. やまやまのこころ	ある	
4. まじめ、がんばる	ある	
5. ぶつぎよくする	ある	
6. ほんまのこころ	ある	
7. かんたんにする	ある	
8. かんがえる	ある	
9. ともだちを、たのしむ	ある	
10. まじめ	ある	
11. かんがえる	ある	
12. まじめ	ある	
13. まじめ	ある	
14. まじめ	ある	
15. まじめ	ある	
16. まじめ	ある	
17. まじめ	ある	
18. まじめ	ある	
19. まじめ	ある	
20. まじめ	ある	
21. まじめ	ある	
22. まじめ	ある	



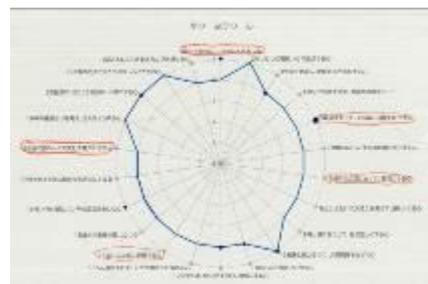
内容項目を生かした目標設定

自分なりに大切にしたい「心」について考える。

- ・レーダーチャートをもとに、自分の「弱い心」や「強い心」を認識し、内容項目を生かした目標設定をする。

- ・自分が「どういう人になりたいか」というゴールの意識をもつことで、自己調整力を育む。

- ・個人内評価として自分の心を育てることを意識し、成長の過程を見つめる振り返りの場を設定する。



振り返りの場の設定（これからの実践）

自分の心を育てることを意識し、成長の過程を見つめる振り返りの場を設定する。

- ・ロイロノートに、「心のページ（仮称）」を作っておき、月に1回程度（朝の活動や帰りの会の時間、行事の後など、クラスの実態に合わせて）道徳の授業や生活を振り返り、友達からのカードや自分が書いたカードを書き溜めていく。（1・2年生は、行事や活動のあとにワークシートに書いて残していく。）

- ・学期に1回程度、書き溜めたカードやワークシートを見ながら、自分を振り返る。

- ・児童が書いた振り返りに、友達から他者評価（コメント）を加えたり、先生からのコメントで価値づけたりしていく。（児童にどの心か分かるように）

- ・振り返りをもとに、レーダーチャートにシールを貼ったり、レーダーチャートの横にカードを貼ったりするなどして、心の成長を視覚化する。

4 研究の成果と課題（○成果 ●課題の改善点）

(1) 道徳意識調査より

○ **昨年度の道徳意識調査**では、全校で見ると「道徳の授業が好き」「きまりを守っている」「自分と違う意見を考えるのは楽しい」「自分によいところがある」に肯定的に答える児童が少なかった。しかし、今年度はその4項目について肯定的に回答している児童が増えた。

「道徳の授業は好き」に肯定的に回答している割合は88.3%で、昨年度より7.6ポイント増。

「きまりを守っている」に肯定的に回答している割合は95.2%で、昨年度より4.5ポイント増。

「自分と違う意見を考えるのは楽しい」に肯定的に回答している割合は97.2%で昨年度より10.2ポイント増。

「自分によいところがある」に肯定的に回答している割合は93.8%で、昨年度より13.7ポイント増。

(2) 地域道徳学習について

(地域道徳学習)

道徳教育の一つの柱として、他教科等や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳学習を構想し実施すれば、地域に主体的に関わり、学びを自分ごととしてつなぐ児童を育成することができるだろう。

- ふるさと教材を活用する際、意図的に地域話題を出すことで、教科書の中の話ではなく、自分たちの住んでいるふるさと津田町と重ね合わせて考えることができた。

- 総合的な学習の時間のテーマと自分たちが目指しているゴール、ゴールに向けて自分たちがやってきたことを背面に掲示することで、自然と活動を見返すことができた。友達同士の考えを共有したり、キーワードを蓄積したりすることができた。

- 授業後に行った松原清掃の振り返りでは、「みんなで協力」「やりとげた達成感」「地域の役に立つ」など、授業で出てきたキーワードがたくさん書かれていた。多くの児童に変容が見られた。

- すなはまフェスティバル実行委員長の話を聞くことからスタートしたことで、津田町を盛り上げるために自分も協力したいという思いが自然と高まった。

- 道徳と他教科とを関連させた学習を行うことで、すなはまフェスティバルに向けて、もっと工夫したい、津田町を盛り上げるためにがんばりたいという思いが、児童の内から高まった。

- すなはまフェスティバルの活動後には、「ようこそ菅島へ」の主人公と同じように、活動への満足感や成就感を味わうことができた感想が書かれていた。また、津田町への思いもさらに高まっていた。
- 総合的な学習の時間の課題が道徳の学習の時間のめあてとしてうまくつながっているのか、考えていかなければならない。
- 今年度は、すなはまフェスティバルの日が雨天で活動が制限された。地域行事への参加について、日程などにゆとりをもたせておきたい。また、行事の精選が必要である。

(3) 単時間道徳学習の授業改善について

(単時間道徳学習の授業改善)

道徳教育のもう一つの柱として単時間道徳学習の在り方を、自分ごとの学びを視点に見直し、授業を工夫・改善して充実を図れば、学びを自分との関わりとして考え、議論する児童を育成することができるだろう。

ア 「問題をもつ」

- 他教科や学校行事と関連させることで、適切にめあてを設定することができた。
- 福祉体験学習（総合）の振り返りで、自分の経験を思い出させるために、児童が感じたことを残しておいた。それをもとに、本時に入るまでにそれぞれの困り感をもち、子どもたち一人一人が課題をもつことができていた。

イ 「追求する」

- 資料を事前読みしておくことで、自分ごととして考え友達と交流する時間を十分にとることができた。
- 教材を読む前に、おおまかな内容を子どもたちに伝えておき、主人公の気持ちを考えながら聞くように指示した。教材を聞く視点を与えることで、主人公に自分を重ねて教材を聞き、気持ちを考えることができていた。
- 総合的な学習の時間や行事の参加のロイロノートに蓄積していくことで、その時々思いを振り返りながら、自分の心と向き合うことができた。
- 追求するⅠ、追求するⅡのどちらも充実させるためには、授業展開・時間配分に工夫が必要。またその授業スタイルに慣れるまで時間がかかった。
- 心情円を使って登場人物の気持ちを視覚化させることで、どうしてそのように変化したのだろうという問題意識が、子どもたちから出てくるようになった。
- 役割演技で教師が相手役をすることで、自分の言葉で話したり発言を膨らませたりすることができた。
- 役割演技では、教師が監督、児童が役者になりきることで、思いを膨らませたり、相手の思いに気付いたりすることができた。
- 主人公の気持ちを個人で考える前に役割演技をした。役割演技をすることで、その場面での主人公の表情や動きにも目を向けることができ、児童の考えを広めたり深めたりすることができた。また、見通しをもって主人公の思いを書く活動に取り組むことができた。
- ロイロノートを活用して意見を共有し、友達同士で紹介し合うことで、多様な意見に触れ、考えを深めることができた。
- 導入でのアンケートで問うことと、自分ごととして考える項目を同じものにして比較することで、1時間の変容や成長に子どもたち自身が気付くことができた。
- 全体で意見を交流する際に、視点を与えてグループの発表を聞くことで、児童主体で考えを深めたりまとめたりしていくことができた。
- 低学年は、まだ語彙が少なく書ける字も限られているので、思っていることがあっても自分の言葉で上手く伝えきれなかったり、ワークシートにどう書いていいのかわからなかったりして、子どもの思いが十分に引き出せない。
- ホワイトボードを用いた班交流の後、全体交流で各班での多様な考えの発表に時間がかかる。そこで、各班でのおすすめの考えを1つずつ出した後、全体で考えを付け加えたり質問をしたりしながら深めていくという方法を取り入れると時間短縮になるのではないかと。

ウ 「つなげる」

- 6年生の説話を聞くことで、身近な存在である6年生が地域のために進んで働いていることに気付き、自分たちも受け継いでいこうという意欲を高めることができた。
- すなはまフェスティバル実行委員長に授業の感想を話してもらった。すなはまフェスティバルに向けて準備を進めてきた自分たちの活動を認め感謝されたことで、「自分たちのしてきたことは間違っていない」と自信をもつことができ、翌日のすなはまフェスティバルへの活動意欲を高めることができた。
- 振り返りの時間をしっかりと確保することで、児童は自分を見つめ直すことができた。
- 振り返りの際、振り返りの観点（「自分だったら～」「これから自分は～」など）を示すことで、より自分ごとで考えられるようにしていきたい。